

## 幼児保育史における造形活動の変遷(Ⅱ)

—— 山梨における幼児の造形活動 ——

田 中 陽 子

The History of the Care and Education of Young Children in Yamanashi ; Notes (9)  
The Development of Arts and Crafts in the History of Care and Education of  
Young Children (Ⅱ) — Arts and Crafts of Young Children in Yamanashi —

Youko TANAKA

### はじめに

山梨県保育史の共同研究を進めるために、拝借した進徳幼稚園、青藍幼稚園の保育日誌・保育計画等の資料は複写し、製本して今後の研究にも役立てようとしている。山梨県における造形活動の変遷もこの資料から明らかにすることはできないかと考えてきたが、山梨県における造形活動の変遷も独立したものではなく、国の方針や明治期の恩物保育の影響を受けていることから、前稿<sup>(1)</sup>においては先ず、わが国の幼児保育史における幼児の造形活動の変遷と恩物について国立国会図書館の文献等から論述した。

拝借した進徳幼稚園・青藍幼稚園の保育日誌・保育計画は明治・大正・昭和にまたがったもので断続した部分的なものではあるが保存されていた資料から山梨県における造形活動の変遷を明らかにすることはできないかと考えた。長い歳月を経過した今日では過去の全ての保育日誌・保育計画は当然のことかも知れないが残ってはいないが、現存するものから明らかにしたいと考える。

現在の山梨大学附属幼稚園の前身である山梨師範学校女子部附属幼稚園は、昭和19年に山梨市上神内川に開園した。ここの昭和19年からの保育日誌は、現在の山梨大学附属幼稚園に保管されていることを知り拝借することができた。この資料からも戦中戦後の保育の一端を知ることがで

きた。

本稿では山梨県における幼児保育史における幼児保育の状況を明らかにしながら造形活動の変遷について考察したいと思う。

### 1. 山梨県立師範学校附属幼稚園の保育

#### (1) 「幼稚保育科」の状況

山梨県最初の幼稚園は明治22年(1889)山梨県立尋常師範学校附属小学校内に設置された「幼稚保育科」である。山梨県の最初の幼稚園は公立幼稚園であった。「幼稚保育科」は明治27年(1894)に附属小学校から独立し、山梨県立師範学校附属幼稚園と改称された。しかし、財政難の理由によって明治31年(1899)に廃止された。

山梨県立尋常師範学校附属小学校内に設置された「幼稚保育科」の実状は、学事年報(明治22. 4. 24)によると、幼児総員は81人(男42人、女39人)である。

明治27年3月22日、山梨県知事から「尋常師範学校附属幼稚園規程」が示され、幼稚園の保育時数、幼児定員、欠員処置、休業日、保育料等が詳細に定められた。

#### (2) 附属幼稚園の保育

「尋常師範学校附属幼稚園規程」(明治27. 3. 県令第20号)によると、明治25年7月文部省令に基き尋常師範学校に附属幼稚園を設置し、その

規程を定め、明治27年4月1日から施行された。

附属幼稚園の保育課目は行儀、談話、手技、計方、唱歌、遊戯とし、その課程は尋常師範学校長がこれを定め、県知事の許可を受けなければならないとしている。保育時数は毎週20時とする。但し、夏期休業前後、各3週間以内は15時まで減ずることがあってもよいとしている。幼児の定員は90人とし、その年齢は満3歳以上満6歳以下とすることも定められている。

山梨県立師範学校附属幼稚園の保育の一端は、拝借した進徳幼稚園の資料の中に「幼稚科保育室日誌」<sup>(2)~(5)</sup>として4冊含まれていた。この保育日誌の一例は、図-1「幼稚科保育日誌」である。山梨県の初期の幼稚園の造形活動の変遷も独立したのではなく、明治期の国の方針や東京を中心とする活動や恩物保育の影響を受けていることは明らかであった。

## 2. 進徳幼稚園の保育

### (1) 創立当時の状況

山梨県立師範学校附属幼稚園が廃止された明治31年4月10日に私立の進徳幼稚園が開設された。

進徳幼稚園の初代園長進藤津るは、山梨県より選ばれて、東京女子師範学校に明治9年に入学し、明治14年に卒業した。明治30年山梨県立師範学校附属幼稚園保姆を拜命し、明治31年の同校附属幼稚園廃止のため退職し、進徳幼稚園を設立し、園長となった山梨県保育史上の先駆者である。山梨県立師範学校附属幼稚園が閉鎖された際に、保育日誌及び教材類等を進徳幼稚園はその一切を受け継いだ。進徳幼稚園は現在も続く山梨県最古の私立幼稚園である。開園当初は、山梨県立師範学校附属幼稚園と東京女子師範学校附属幼稚園を模範とした保育が行われた。

創立当時は園児数は40名、保母2人、代用保母1人で、位置は甲府市紅梅町西の角（現在の丸の内1丁目16番地）で敷地は200坪位、保育室は南向き二部屋で西端に6畳位の小部屋があり、「おつき部屋」といって付添人の休む部屋であった。運動場は南に60坪位、裏には池もあった。

その後、明治36年に甲府市桜町650に国有地を借り、明治37年に園舎が落成した。園地は、319坪、建坪101坪あった。その後、昭和30年に現在地の甲府市湯村二丁目4番35号に移転している。開園当初の幼稚園規則によると、「本園ハ学齡未滿ノ幼兒ヲシテ遊戯ノ内ニ徳義ノ心ヲ涵養シ、諸觀念ヲ開發シ、兼テ身体ノ發育ヲ補イ、天性ヲ傷ハザル様保育スルヲ以テ目的トス」とし、保育の科目は修身、説話、庶物、手技、唱歌、遊戯としている。保育科目の程度及び毎週時間は次頁の表のようである。但し夏季休業前後は時候の都合により減縮することもあるとしている。

当時使用した恩物は、第一 六球、第二 三形体、第三 積木、第四 積木、第五 積木、第六 積木、第七 排板、第八 置箸、第九 置環、第十 石盤画、第十一 紙刺シ、第十二 縫取、第十三 剪紙、第十四 織紙、第十五 組板、第十六 連板、第十七 組板、第十八 摺紙、第十九 豆細工、第二十 粘土細工 以上であった。

日 曜 水 日 一 十 月 十 年 六 十 治 明										
女	男	出 席 数	事 紀						第 廿 三 週	象 氣
女	男	欠 席 数							薄 曇	
			組板	唱歌	遊戯	修身	集會	科學	教授日誌	
			山梨県立師範学校附属幼稚園	行くよやの山ふ野みせの 原みあもしらん	戸科自由	女子遊戯 のまねやふあふり おつき部屋				

図-1 「幼稚科保育日誌」(明治26年10月11日)

科目	毎週保育時間	
修身	3時間	人道実践ノ方法
庶物	3時間	日常簡易近接ナル什器、花器、動植物ノ実物ニツキテ誘導
手技	8時間	積木、板排、箸環、紙摺、紙織、紙切、繫方、縫取、豆細工
唱歌	3時間	
遊戯	6時間	

(2) 明治44年の進徳幼稚園の保育について

明治44年6月3日付『山梨民報』の中に、当時の進徳幼稚園が行っていた保育内容なども記されている。それによると保育年限は2年で、幼児の年齢発育の模様によって甲乙丙の3組に分け、保育の科目は修身説話が週に3時間で主に人道実践方法、庶物も3時間でこれは日用簡易に接している道具類、動植物や花などの実物を示して教育し、手技は8時間で積木とか折紙、切り紙など幼児の知能を高めるためにもっとも好適と思われるものとして多くの時間を取っている。このほか唱歌、遊戯などを含めて週23時間（1日4時間、午前9時～午後1時半）となっている。

(3) 「教案三之組」大正11年(1922)の例

進徳幼稚園所蔵の「教案三之組」は大正11年5月1日(月曜日)から10月28日(土曜日)までのものである。この教案から当時の保育の状況を知ることができる。事例として「教案三之組」を取り上げたのは、記述が細かく、当時の保育と恩物とのかわりを知る手がかりとなると判断したからで、和紙に毛筆で書かれた教案の記録は貴重なものである。記録に残る108日間の資料から当時の姿が偲ばれる。当時の国の方針はどうであったのだろうか。明治32年(1899)6月文部省は、「幼稚園保育及設備規程」を出しその保育内容は「1. 遊戯、2. 唱歌、3. 談話、4. 手技」の4項目を示している。そして手技の内容については「幼稚園恩物を用いて手及び眼を練習し心意発育の資とす」と記されている。

取り上げた「教案三之組」の保育内容108日間の割合は、遊戯：35回(32.4%)、唱歌：92回

(85.2%)、談話：16回(14.8%)、手技：147回(136.1%)である。手技が100%を越えたのは図-2で例示したように一日に板排と摺紙という恩物による保育内容が行われていたからであり、手技の比率の高いのは当時の特長ともいえる。

なお、恩物指導について例示した、図-2「教案三之組」にもあるように、題目、要旨、方法、予備、教授の各々について記載されている。この中で、方法としてこの105日間にあげられている指導方法は、例示にある示範法、随伴法の他に模倣法、直観法、記憶法、考案法、応用画、臨画、指示法、創作法、写生画という方法に、恩物を中心とする手技の指導についてもいろいろと工夫されていたことを知ることが出来る。さらに指導では易より難へということへの配慮も読み取れた。また、折紙と摺紙の両方の言葉を使ってあった。

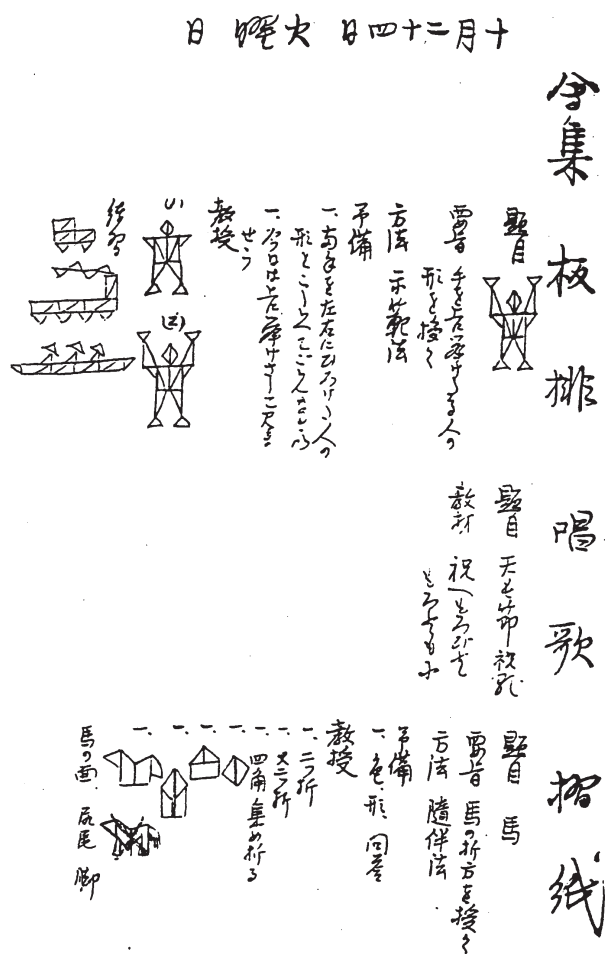


図-2 「教案三之組」(大正11年10月24日の例)

さらに、手技の147回の恩物による保育内容の比率の多い順に示すと、次の通りである。

板排 (置板)	: 29回 (19.7%)
置 箸	: 18回 (12.2%)
図 画	: 18回 (12.2%)
摺 紙	: 18回 (12.2%)
積 木	: 17回 (11.6%)
紐 置	: 9回 (6.1%)
粘 土	: 9回 (6.1%)
豆 細 工	: 7回 (4.8%)
刺 紙	: 6回 (4.1%)
練 紙	: 6回 (4.1%)
剪 紙	: 6回 (4.1%)
織 紙	: 2回 (1.4%)
組 板	: 2回 (1.4%)

なお板排のうち9回は、特に色板を用いて「色の名称を確実に覚えしめ併せて美的趣味を養ふ」としている。この教案の中に恩物の置環、組板、連板は出てこなかった。

山梨県における造形活動の変遷も国の方針を受けていることをここでも読み取れる。

#### (4) 国や他県の活動の影響

明治末から大正時代にかけて、後に日本幼稚園協会となり全国的に影響を持つ保育者の組織であるフレーベル会や京阪神三市連合保育会（後の関西保育連合会）の保育講習会には全国から参加者が集まった様子は現存する資料から分かる。

拝借した進徳幼稚園の資料からは初代園長進藤津るは、京阪神三市連合保育会の雑誌を手に入れたり、保育の講習会に参加して新しい保育の情報と刺激を受けていたことが推察される。

更に、明治末から大正時代にかけて、幼児保育界は新しい保育を求めようとしていた。フレーベル会の恩物中心の保育への見直しが、全国の幼児保育に影響を与えていった。進藤津るも保育講習会や入手している雑誌からの影響を受け、進徳幼稚園に自由保育を取り入れるようになったと考えられる。

#### (5) 進徳幼稚園の昭和の保育

進徳幼稚園に所蔵されていた保育日誌の一部の断片からではあるが、昭和の保育の状況を見ることが出来る。

昭和4年の保育日誌は、毎日必ず恩物又は恩物に準ずるものを毎日1～2種を取り上げている。

例えば、5月19日月曜日から25日土曜日まででは石盤と摺紙、積木と紐置き、木の実と麦藁細工、板排べとクレヨン画、箸輪と積木、摺紙というようである。その他に粘土、切抜、豆細工、畳紙、剪紙、塗絵、縫取り、織紙、組紙、自由画等があり手技即ち造形活動の比重は非常に重い。

昭和9年の保育日誌は、文章表現で一日の保育の流れを記している。9月6日には、『自由遊びで子供達と鬼ごっこをして遊ぶ。やがてお部屋に入り、紙を与えて自由画を描かせた。「先生型をかいてよ型がなくてはかけない」など塗り絵をする積りになっている人もある。』等の記述も見られる。9月15日土曜日『今日は当園の研究会当番にあたるので朝早くからお掃除も念入りにして子供を待つ。登園した子供達は早速に楽しく汽車遊びをはじめた。運送やさんの車はひっきりなしに動く。やがて九時頃に富士川幼稚園の園長さんが見えた。おはいりして全体の唱歌遊戯をしているところへ二葉幼稚園の園長さんが保姆さん二人連れてお見えになる。お遊戯がすんで運動場へ出て又ひとしきり汽車遊びに興じ、十一時頃おはいり粘土をする子供、お皿、果物等の傑作がつぎつぎと出来た。十一時頃におかえり、引きつぎ午後一時まで研究会を開く』等の記述に当時を偲ぶ。

昭和11年頃の保育日誌は、図-3の青藍幼稚園の保育日誌と同じ形式のものである。さらに昭和13年、昭和19年～昭和20年の保育日誌は、同じ形式の保育日誌をガリ版摺りした保育日誌を使用しているところに戦前、戦中の日本の経済状態をも後世に伝えている。その中で保育は脈々と続けられていたことを記録は物語っている。戦中、戦後の保育日誌の談話の欄には紙芝居（こぶとり、熊のおうち等）が出てくる。

昭和27年の保育日誌では、出欠、健康、自由遊び、音楽、リズム、図画、製作、紙芝居、お話、観察、その他に続き日誌内容の欄に記述がある。この頃には、製作の中に切り紙や金魚の折り紙等の他に、製作として貯金箱、着せかえ人形の切ぬき等も見られ、恩物の内容は少なくなる。

昭和27年の保育日誌の形式は、保育予定案の欄が、言語・童話・紙芝居、絵画製作、音楽、リズム、自然観察、その他となる。絵画製作の欄に折り紙（おふね作り・蝶々・チュリップ・金魚）、クレヨンで○△を自由な色で、大小は自由にかか

せてみた、自由画、塗り絵、紙細工、粘土細工、切紙細工、写生画(バラの花、人形)、時計づくり(3日間連続)、コマの製作仕上げ、鯉のぼり製作(はり紙)が出てくる。特に自由画の比率は高くなり、作ったもので遊ぶ保育もあり、時計づくりをして時計屋さんごっこ、金魚を折って金魚屋さんごっこという保育が見られるようになる。

昭和30年、昭和31年の保育日誌は、形式も新しくなり月、日、曜日、天候、保育予定並準備、記録、備考の各欄に自由に記述出来る形式となる。

### 3. 青藍幼稚園の保育

#### (1) 青藍幼稚園の開園

甲府市の進徳幼稚園に対して郡内地方の中心であった谷村(現都留市)に、原徴信によって山梨県内の二番目の私立幼稚園として明治39年(1907)4月に、郡内地方の中心に初めて青藍幼稚園が開設された。甲斐絹の集散地、宿場町として栄えた繁華な町の中心にある長安寺に設けられた。

当時、長安寺は前の住職が東京へ転任して空寺だった。前の住職の学友であった原徴信に、病氣快復のため山紫水明の山梨県の郡内での静養をすすめられて、廃寺同然のこの寺に移って来られ、境内地千数百坪に雑草の生い茂る中で暮らすことになった。原徴信夫人の「くら」は、福岡県師範学校を卒業し、東京の洞善女学校の教諭もし、同校の附属幼稚園のことも理解していた。そこで夫妻で幼稚園を開園することになったと青藍幼稚園の記録に述べられている。

本堂の南外陣の15畳の部分を保育室にあて、机、腰掛け、オルガン、遊具等を新調して保育をした様子は聴き取りに伺った平成5年にも語り継がれており、当時を偲ぶことができた。

#### (2) 青藍幼稚園の保育内容

保育の内容を知る資料として保育日誌<sup>(27)~(37)</sup>が残されているが、地域の子どもの伝承あそび、折り紙、砂遊び、遊戯、唱歌等に加えて、お茶や作法もしつけの一環として取り入れていた。

大正7年の「保育豫定案並-保育日誌」には、恩物の影響がある。保育日誌から見る造形活動は手技手工の欄に、畳紙、織紙、粘土細工、豆細工、積木ということが並んでいる。折り紙では伝承折り紙のちょうちん、鶴、三方、ふくら雀、かぶと、風船が記されている。大正15年には二双船、ほかけ船、オルガン、ちりとりが記録されている。どの日誌にも、出席者と欠席者の人数は記載されている。一例を示すと図-3である。

大正11年1月15日の「保育豫定案並-保育日誌」には、絵画の彩色をなすという記録が残っている。大正15年から昭和2年にかけての日鑑では、画キ方にぬりえという言葉が再三出てくるが、自由画という言葉も出現してくるようになる。畳み紙に代り、折り紙という表現も記されていることに時代の流れを感じた。

### 4. 穴切幼稚園の活動

甲府市に昭和3年(1928)に穴切幼稚園が開園した。創設者の古屋喜男は開園に際して、幼稚園の保育について進徳幼稚園から多くを学んだと言うことを聴き取りに伺った時に聞くことができた。昭和3年から戦前、戦中、戦後と続いた私設の穴

其 他	寫 真 本 見 の 實 験 観 察	唱 歌	遊 戯 運 動	手 工 技 術	談 話	第 一 保 育 豫 定 案 六 月 四 日 水 曜 日	第 二 保 育 日 誌 附 一 研 究 事 項
		倉 集		積 木			出席者三十三人 欠席者七人 午後三時分は藤田先生 来園者見ノ作持様 查リテ午後四時 了

図-3 「青藍幼稚園の保育豫定案並-保育日誌」  
(大正7年6月4日)



## 6. おわりに

進徳幼稚園、青藍幼稚園、山梨師範学校女子部附属幼稚園等の保育日誌、保育計画から明治、大正、昭和にまたがって、点でつながっている資料から山梨県における造形活動の変遷を明らかにしてきた。保育日誌等から先人の保育者の気持ちを読み取り、考えさせられることも多々あった。

山梨県における幼児保育は、山梨県立尋常師範学校附属小学校内に設置された「幼稚保育科」が開園してから一世紀以上が経過している。

現在の「幼稚園教育要領」は平成元年(1989)3月15日告示され平成2年から施行されている。現行の幼稚園教育要領では保育内容は「1. 健康、2. 人間関係、3. 環境、4. 言葉、5. 表現」となっている。領域「表現」は非言語表現の造形表現、音楽表現、身体表現があり、言語表現は「言葉」として独立した領域となっており、造形表現は領域「表現」の一分野として統合された。

造形表現について現在考えていることを示したい。教育は人間形成にあり、その人間形成の核心は「心の教育」にあるのではなかろうか。人間の教育の各段階において「心の教育」は、自然や社会、人の心や生き方などに感動し、自らが豊かな感性をもって、創造的に自らの世界をつくり出す能力を開発する、教育活動の基盤となるものである。造形活動は幼児期では泥んこ遊び、砂場での遊び等の「造形あそび」や「造形表現」としての活動を含めて多様に展開されている。

心と頭と手をとおしてもものとかかわる行為が「造形」であり、試行錯誤、決断、一心不乱等の繰り返しによって、充実感や成就感も身体で知覚することができるものである。

造形表現活動を通して育つものは幼児のみならず、保育者養成にたずさわって、保育者にとっても大切な基礎能力であると信じている。

山梨県保育史の研究にあたり、貴重な歴史的資料を提供して頂いた、関係各位に心からの感謝を申し上げる次第である。

### 註

(1) 田中陽子 山梨県保育史研究ノート(6)「幼児保育史における造形活動の変遷(Ⅰ)」『山梨

県立女子短期大学紀要』No.28. 1995年 173-180頁

⑨ (2)～(20)は進徳幼稚園所蔵

- (2) 「幼稚科保育室日誌」明治21年4月4日～明治22年3月25日(既成の日誌、版元不明)
- (3) 「教室日誌」(乙之組)明治24年4月1日～明治25年3月16日(既成の日誌/明治20年12月5日出版、西山梨郡柳町、東浦榮次郎)
- (4) 「教室日誌」(幼稚科乙組)明治25年4月1日～12月15日(既成の日誌/明治20年1月1日出版、東京日本橋区、扇田豊次郎)
- (5) 「教室日誌」(幼稚科乙組)明治26年4月4日～27年3月24日(既成の日誌、版元不明)
- (6) 「教室日誌」(甲組)明治38年10月2日～39年3月29日(既成の日誌、版元不明)
- (7) 題目なし(日誌)明治44年9月25日～明治45年3月20日(和綴じ白紙に記入)
- (8) (表紙題目なし、保育日誌)(年代不詳、「大正11年の筆に似ている」との付箋あり)
- (9) 「一ノ組保育日誌」進徳幼稚園裏表紙「甲位」(?)の印あり年代不詳10月～6月
- (10) 「一ノ組保育日誌」進徳幼稚園 年代不詳6月～3月
- (11) 「一ノ組保育日誌」進徳幼稚園裏表紙「甲位」(?)の印あり 年代不詳10月1日～6月22日
- (12) 「三ノ組保育日誌」進徳幼稚園大正4年ごろ
- (13) 「昭和四年五月日誌」進徳幼稚園 昭和4年5月13日～昭和5年9月(松之組受け持ち 保母 進藤葆子)
- (14) 「保育日誌 梅之組」昭和9年1月～9月
- (15) 「保育日誌 松之組」「昭和13年前後」の付箋 4月～10月
- (16) 「保育日誌」「昭和11年」の付箋4月～8月
- (17) 「保育日誌」「昭和11年4月から」の付箋 4月～11月
- (18) 「昭和十三年度 保育日誌 松の組」昭和13年4月～11月
- (19) 「保育日誌 梅之組」「昭和19年～20年4月頃のもの」の付箋
- (20) 「保育日誌 梅組」「昭和二十七年十一月十二日受持堀内」(裏表紙)付箋には「27年?」とあり、表紙と中身が違う可能性あり
- (21) 「保育日誌 桜組 教諭 堀内和枝」昭和28年4月6日～9月15日

- (22) 「保育日誌 竹組」昭和28年4月6日～昭和29年3月12日
- (23) 「昭和二十九年度 日誌 竹組」昭和29年4月5日～9月1日
- (24) 「昭和二十九年度 日誌 松組」昭和29年4月6日～9月21日
- (25) 「保育日誌 松組」「昭和30年」の付箋付き  
4月11日～9月23日
- (26) 「昭和三十一年度 保育日誌 梅組」  
昭和31年4月5日～昭和32年2月20日  
担任 齊藤昌子 宮澤幸子  
② (27)～(37)は青藍幼稚園所蔵
- (27) 「日鑑」青藍幼稚園 明治45年4月～大正3年7月
- (28) 「日鑑」青藍幼稚園 大正5年7月～大正7年4月
- (29) 「日鑑」青藍幼稚園 大正9年4月～大正12年3月
- (30) 「日鑑」青藍幼稚園 大正15年7月～昭和2年6月
- (31) 「第二拾回保育日誌」青藍幼稚園  
大正14年度
- (32) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園保育係  
大正7年4月～7月
- (33) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園一組主任  
大正7年9月～大正8年6月
- (34) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園二組三組主任  
大正7年9月～大正8年6月
- (35) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園一組  
大正9年4月～大正10年3月
- (36) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園二組  
大正9年4月～大正10年3月
- (37) 「保育豫定案並ニ保育日誌」青藍幼稚園  
大正10年4月～大正11年6月  
② (38)～(49)は山梨大学附属幼稚園所蔵
- (38) 「保育日誌」昭和19年4月 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (39) 「保育日誌」昭和20年度 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (40) 「保育日誌」昭和21年度 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (41) 「保育日誌」昭和22年度 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (42) 「保育日誌」昭和23年度 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (43) 「保育日誌」昭和24年度 山梨師範学校女子部附属幼稚園
- (44) 「保育日誌」昭和25年度 山梨大学山梨師範学校附属幼稚園
- (45) 「保育日誌」昭和26年度 山梨大学学芸学部附属幼稚園
- (46) 「保育日誌」昭和27年度 山梨大学学芸学部附属幼稚園
- (47) 「保育日誌」昭和28年度 山梨大学学芸学部附属幼稚園
- (48) 「保育日誌」昭和29年度 山梨大学学芸学部附属幼稚園
- (49) 「保育日誌」昭和30年度 山梨大学学芸学部附属幼稚園

(1996年12月9日受理)